

秋 分 儀 式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 AE14A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春秋分点の前後48時間以内に実施すること。2014年の秋分点通過は9月23日(月)午前11時29分(日本標準時)である。儀式内容は、ケドゥシャー詠唱等の技法を用いて秋分の祝祭を実施する。

1 カバラの背景

(1) 秘中の秘

カバラは実践的学問であり、信仰するものではない。ユダヤ人は厳しく、これを実践した。

古い格言「今すぐに学べ、そして何事も鵜呑みにするな。」こそ、秘教的学問の要諦である。⁽¹⁾これは現代の教師の助言ではなく、ヘカロート文学においても、多々繰り返される言葉である。

『マセー・メルカバ』(§544(シェイファー等の定義した文書(ミクロフォルム)番号、以下同じ。))では「秘(ק'י'ר)なり、秘中秘(ק'י'ר'י'ר)なり、玄秘(ק'ש'ר)なり、玄秘中玄秘(ק'ש'ר'ש'ר)なり、そはモーシェの手に、モーシェからイスラエルへ、律法として渡されたり。ゆえに律法を学習せよ。」とある。⁽²⁾

同様に『メルカバ・ラバ』(§675)においても同じである。⁽³⁾

カバラを学ぶ者を大天使のなかの大天使、サル・ハ・タルムード(סל'ה'תלמוד'ר)が助けてくれる。かれは「学習の宰相」とも呼ばれる。⁽⁴⁾

ヘカロート文書の研究が始まった前世紀の初期には、初期ユダヤ魔術との混同や、ギリシャ・エジプト魔術パピルスなどの影響を論じる向きもあった。しかし、神秘学的な文献群の調査が進むと、魔術的な枠組み、魔術理論及び技法と、神秘学的な枠組み等の差異が明快になってきた。⁽⁵⁾

(2) ケドゥシャー詠唱

2011年の秋分儀式では「ゲドゥラー詠唱」を用いた。メルカバ神秘主義の代表『大ヘカロート』は、様々な詠唱群を含んでいる。ゲドゥラー詠唱(§§81-93)、ケドゥシャー詠唱(§§96-104)、殉教者の説話(§§107-121)等である。その中でゲドゥラー詠唱は、幻視者とそのコミュニティとの関係の特徴づける緊張感を表している。⁽⁶⁾ゲドゥラー詠唱は冒頭から「なべて大いなるものは(ゲドゥラー・ミ=クラム)・・・」と語り始めるため、その名前がついた。⁽⁷⁾

一方、「ケドゥシャー詠唱」は、詠唱の文脈が高揚点を迎えるくだりで、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな(ケドゥシャー、ケドゥシャー、ケドゥシャー)」(『イザヤ書』6:3)を唱えることから名付けられた。⁽⁸⁾

ケドゥシャー詠唱は、ギリシャ語聖書におけるケドゥシャーの訳語ἅγιος(ハギオス)から「三聖(Trishagion)」とも言う。

ケドゥシャー詠唱は、通常は『大ヘカロート』の一部を指すが、ヘカロート文書群のなかで

(1) Rabbi Raphael Afilalo, *Kabbalah Concepts*, Kabbalah Editions, 2006, p.15.

(2) J. R. Davila, *Hekhalot Literature in Translation : Major Texts of Merkavah Mysticism*, Leiden : Brill, 2013, p.253.

(3) Ibid, p.317.

(4) Klaus Herrmann, "Jewish Mysticism in Geonic Period," in *Officia Magica*, 2005, p.191.

(5) Ithamar Gruenwald, "When Magical Techniques and Mystical Practices Become Neighbors : Methodological Considerations," in *Continuity and Innovation in the Magical Tradition*, Leiden : Brill, 2011, pp.161-167.

(6) Ra'anan S. Boustán, *From Martyr to Mystic*, Tübingen : Mohr Siebeck, 2005, pp.43, 251.

(7) Peter Schafer, *The Origins of Jewish Mysticism*, Oxford : Princeton University Press, 2011, p.248.

(8) Peter Schafer, *The Hidden and Manifest God*, New York : State University of New York Press, 1992, p.24.

は、『マセー・メルカバ』におけるラビ・アキバの七宮殿訪問時 (§§555-556) にも唱えられる。実はケドゥシャーを唱えるのは天界を訪問する人間ではなく、各天において主を称えて詠唱する天使たちである。第1と第2宮殿では、ケドゥシャーの三連唱が行われるが、他の宮殿では「祝福あれ (バラクー)」が詠唱されたという。⁽⁹⁾

2011年の春分儀式で紹介した『第3エノク書』(セフェル・ヘハロート) において、語り手であるラビ・イシュマエルが第七天においてメタトロンと対峙し、メタトロンがまだ人間(長老エノク)であったとき、主の栄光により、炎に変容したことを聞かされた。⁽¹⁰⁾

「たちまちわが身は炎となり、わが臍は高熱を発する火となり、わが骨は輝く石炭となり、わが脛は光輝く稲妻となり、わが眼は燃えさかる炬火となり、頭髮は高温発する炎と化す。わが四肢は燃え上がる火の翼となり、わが体軀は火にあぶられる。

わが右手には燃えさかる炎の軍団が、わが左手には炎の刻印が吹きあれている。

四周を暴風と嵐が取り巻き、前と後ろには地震のなかに碎ける稲妻が走る。」⁽¹¹⁾

この「炎の変容」と対になる描写が、ケドゥシャー詠唱のなかにもある。

「ゾハリエル・ヤーウェ (יהוה זרחיאל) イスラエルの神の外衣、・・・

いかなる存在も、肉と血の眼をもって、その臨在のなか、かれを見る能わず。

かれを眼のあたりにし、かれを凝視し、かれを見る者は、光の切り返し眼窩を襲い、

その眼窩を消し飛ばし、炬火の炎が流れ込み、焼き焦がし、灼き尽くす。

さらに見つめる者を火に包み、灼き尽くし、あぶり尽くす。・・・」⁽¹²⁾

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (PC)、すなわち「先導者」の1名である。

PCは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体(かれらはアストラル体と呼称)を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間(Robing Room)において、光の法衣を纏う。

(2) 律法の宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神(天使を使役する者)として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

(9) Michael D. Swartz, *Mystical Prayer in Ancient Judaism*, Tübingen : J. C. B. Mohr, 1992, pp.128-130.

(10) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, pp.151f.

(11) Hugo Odeberg, *3 Enoch or The Hebrew Book of Enoch*, chap.XV [§ 19], New York : Cambridge University Press, 1928, p.39.

Übersetzung der Hekhalot-Literatur I, §§ 1-80, Tübingen : J. C. B. Mohr, 1995, pp.43f.

(12) James R. Davila, *Hekhalot Literature in Translation : Major Texts of Merkavah Mysticism*, Hekhalot Rabbati, § 102, Leiden : Brill, 2013, pp.62f.

4 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。(家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等)、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

シナリオ文書を単純化したので可能ならば記憶してもらいたい。記憶できない場合でも黎明視の妨げとなるので、テープの使用は控え目に。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い(儀式的沐浴)、法衣(または身体を締め付けない服装)に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化させる。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話の形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹たちは左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I ∴ O ∴ S ∴ の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

PC : 「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC : 聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(אֲרִיסְטִיסְטִיִּי)

全員 : 「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC : 聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(אֲבָגּוּגּוּ)

全員 : 「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC : 聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」(אֲרִימְטִיפֶּי)

全員 : 「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC : 聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(אֲרִיסְסֵסִיִּיאֵר)

全員 : 「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC : 聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(אֲבִיסֶרְבָּגְעֶלְיָאֵרְדוּעֶל)

全員 : 「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC : 聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命と

すべての部分を守護するために。」(אֲבָפָקִיקֵטֶלְסֶסֶיאִקָּדוּדָדוּיָא)

全員 : 「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC : 聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。

わが天蓋を封じる。」(אֲוֶבְפָסוּיָאֵוּקִיֵּבְיוּזָהָבְיָאֵוּטִיטִיס)

全員 : 「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成と律法の宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC : 「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

P Cは東を向いて宣言する。

「I ∴ O ∴ S ∴ の神殿に四方位（よも）の風を召喚せん。」
神殿の東壁の中央に扉が現れた。

P Cは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

P C：「エロウイイー

('הָלָא わが力の根元よ。)

ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー

('בָּ שְׁמַח שְׁוֹאָה] שְׁוֹאָה] 汝が授けし息吹よ。)⁽¹³⁾

テホラー・ヒー

('הָ טָהוּרָה そは清浄なり。)

アター・バラーター

(אָתָּה בְּרָא אָתָּה 汝がそを創造せり。)

アター・ヤツアルター

(אָתָּה יָצַר אָתָּה 汝がそを形成せり。)

アター・ネファクター・ビー

('בָּ נָפַח אָתָּה 汝はそを我に吹き寄せる。)

ヴェ・アター・メシヤムラー・ブキルビー

(וְאַתָּה מְשַׁמֵּר בְּקִרְבִּי 汝は我がうちにあるそを監視する。)

ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー

(וְאַתָּה אֵטָד לְטַלְאוּ מִמִּפְנֵי 汝はいつかそを我より取上げる。)」

全員：「バラフター・ヴェ・ヤツアルター

(אָתָּה יָצַר אָתָּה בְּרָא 創造と形成)」

P Cは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

P C：「ヒー・ネイ・ニー ('נִי הֵנָּה われはここに)

ヒー・ネイ・ニー ('נִי הֵנָּה われはここに)

ヒー・ネイ・アーニー・ヤー ('נִי הֵנָּה הֵנָּה われはここに、神の息吹の)

アナ・ホウシーアー (אָנֹכִי הֵנָּה הֵנָּה 加護のあらんことを)」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー

(אָנֹכִי הֵנָּה הֵנָּה 息吹の加護あらんこと)」

P Cはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C：「ヨー」（呼気）「ヘー」（吸気）「ペーリー・マー」（無の性質を強く意識する。）

全員：「ヨー」（呼気）「ヘー」（吸気）「ペーリー・マー」（無の性質を強く意識する。）

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。

雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。

その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。

その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

(13) 来る (בָּא) の変化形 ('בָּ) は、「霊が我がうちに入りたり (וְהָיָה בְּךָ רֹחַ)」（『エゼキエル書』2：2）のように使われる。

これはエロヒムの影だ。

P Cは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

P C : 「アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主の力よ)」

全員 : 「エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主の力よ)」

南の壁いっぱいに、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

P Cは、祭壇の西に回り、西の方向に天蠍宮のサインを描く。

P C : 「アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
ホウシーアナ (אֲנִי וְאֲנִי われを助けよ)」

全員 : 「ホウシーアナ (אֲנִי וְאֲנִי われを助けよ)」

P Cはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C : 「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

全員 : 「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱいに、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

P Cは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

P C : 「アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ)」

全員 : 「エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ)」

北の壁いっぱいに、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 神聖の詠唱

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは両腕を脇に垂して直立し、マルクト神殿の東方遙かに存在するケテル神殿と、その東壁に置かれた主の玉座を想起しつつ、高らかに詠唱の声をあげる。

PC：「慶べ、慶べ、栄光の玉座よ。唄え、唄え、いと高き者の座よ。

叫べ、叫べ、驚異のあとに驚異が成就されるため、愛しきものを備えん。

賞賛と日々の歌より、数多のときの慶びと唄より、聖なるものの口より出でる賛歌により、集いし者どもの口を押し広げる音楽により、見よ、火と小山のごとき炎が積み上がる。

日々生まれる鉾津に覆われ、身を減らしながら。

言葉によりて、そは曰く。

ケドゥシャー、ケドゥシャー、ケドゥシャー」⁽¹⁴⁾

全員：「ケドゥシャー、ケドゥシャー、ケドゥシャー」

PC：「われ汝の前にあり、הוה יי אלהינו (ゾハリエル・ヤーウエ) よ。

イスラエルの神よ。栄えあれ、わが前に座してあれ。

汝が玉座の前に六つの声あり、栄光の玉座を囲み、ケルビムが、オファニムが、聖なる獣たちが、次々と声を発したり。

第一の声は、聴ける者を忽ち発狂させ、その場に撃ち倒したり。

第二の声は、聞ける者を忽ち失わせ、再び戻ることなし。

第三の声は、聴ける者に発作を起こし、忽ち死にいたらしめる。

第四の声は、聞ける者の頭蓋骨と骨格を砕き、忽ち四肢の関節を引き裂きたり。

第五の声は、聴ける者の中身を柄杓で忽ち掻き出し、血の海のなかに溶け込ませる。

第六の声は、聞ける者の心臓を撃ち、心臓は震えて臓腑を覆し、かれの胆汁を溶かし、水のごとく流し去る。

言葉によりて、そは曰く。

ケドゥシャー、ケドゥシャー、ケドゥシャー」⁽¹⁵⁾

全員：「ケドゥシャー、ケドゥシャー、ケドゥシャー」

PCは掌を前方に向け、人差指が両足から頭頂まで垂直に人体を貫く中心軸の延長上に触れるようにかざす。そして、光体のケテルから前方の神殿の東壁の上空に座標を有する遙かな天界のケテルに意識を集中する。

PCは「ロォーム (□□ 天頂よ)」と唱える。

発声とともに、神殿の東壁に門が開き、ケテル神殿が直接見通せるようになる。光の矢がケテル中枢から彼方のケテル神殿まで一直線に飛翔していく。

全員が「ロォーム (□□ 天頂よ)」と唱える。全員の光体の目がケテル神殿を見て、光の矢を飛ばす。

PCは右手を挙げたまま光球ティファレットに意識を集中し、ティファレットから母音記号シュレクを長く1回発声する。

PC：「ウウー——」

シュレクの振動とともに、神殿の東壁に開いた門の彼方から白輝光が射してくる。ケテル神殿から放たれた神聖光が、光体のケテル中枢に照射され、ケテル中枢が強く脈動する。

全員が右手を挙げながらティファレットに意識を集中し、シュレクを長く1回発声する。

(14) *Hekhalot Literature in Translation*, pp.57f, *Hekhalot Rabbati*, § 94, 95.

(15) *Hekhalot Literature in Translation*, p.64, *Hekhalot Rabbati*, § 104.

全員：「ウウー——」神聖光の到来を感じる。

P Cは母音記号シュレクの発声を終わったあと、掌をケテル中枢にかざしたまま、光体のケテル中枢に受けた神聖光を太陽神経叢のあるティファレト中枢に引き下ろす。

P Cは「ルウム（**לום** 至高よ）」と唱える。

それと同時に、ケテル神殿から放たれた神聖光に絡め取られたまま、一瞬で前方に引き寄せられ、神殿の東壁の門を抜け、ケテル神殿に到着する。

全員が「ルウム（**לום** 至高よ）」と唱える。発声とともに、ティファレト中枢、胸の中心部に強い衝撃と振動を感じ、同時に途方もない力で前方に引き寄せられ、神殿の東壁中央の門を抜け、瞬時にケテル神殿に引き寄せられる。

天の宮殿に到着した。

大理石の立方祭壇の西側から近づき、P Cが宣言する。

P C：「祈りの声を聞かれない。偉大にして強大なる主よ。

高貴にして慈悲深き君よ、その眼差しは被造物にあまねく下される。

汝が従僕たる祈り手に向き直り、好意を持ち答えたまえ。

全宇宙の主よ、万物の造り主よ、宇宙の一者よ。

わが叫びに答え、天の門を開きたまえ。

汝が膝下にある貴顕の御名を召喚するものなり。」⁽¹⁶⁾

P Cが高らかに唄い始める。

P C：「リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(**ל' יש אחיה קבון שדי** 汝が導きにわが望みを主よ。)

キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー

(**ל' יש אחיה קבון שדי** 我が望みを主の導かれるままに。)

シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー

(**ל' יש אחיה קבון שדי** 主の導きに我が望みをを。)」

P C：「サティームー・ヴェー・グー・リアー（**םסח' ןל'א**）」

全員：「隠され開示されたり。」

聖化した四方位の風に取り巻かれ、神聖なる貌の臨在のもと、秋分の秘儀に与るときが来た。

P C：「この場は、光と闇の至聖処なり。

今、頭上に秋分の太陽があり、

光は闇と均衡せんとしている。

われは律法の宰相として、

秋分の執行を宣言する。」

(16) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, p.113.

8 秋分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。

I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)

H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)

V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)

H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

PCは、祭壇の西に立ち、東に向かってホルスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の東に立ち、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。

無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、

そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

9 諸天使の出立

神殿の床が瞬時に溶け落ち、全員がマルクト神殿に降り立った。

PCは祭壇の北に行き、南を向く。

PC：「律法の宰相の加護に感謝する。

霊の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。

PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (𐤓𐤕𐤍𐤕𐤍𐤕𐤍)
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (𐤓𐤕𐤍𐤕𐤍𐤕𐤍)
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。(特別な手順は必要ない。) 光の法衣とともに儀式中に刻印された封印、その他の印は精妙界に去る。

その後、静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ(『魔法日記』用)を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

**VERBORVM PVBLICA
I :: O :: S ::
RITVALE DE
AEQVINOCTIO AVTVMNO XIVA**

**IMPRIMI POTEST : I :: O :: S ::
NIHIL OBSTAT QVOMINVS IMPRIMATVR
IMPRIMATVR : M.E.S.A. 5=6
SEPTEMBER MMXIV**

秋分儀式 AE 1 4 A

Copyrights © All rights reserved I :: O :: S :: 2014

2014年9月17日 I :: O :: S :: 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I :: O :: S :: の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I :: O :: S :: の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。

表紙図版：グノーシス的天使像、2014年